

(公開授業) 第5学年2組 道徳学習指導案

授業者 木原 一彰

5年2組 教室

1 主題名 社会のために生きる

2 資料名 世界の医聖～野口英世(自作資料)

(主として 4-(4)働くことの意義を理解し、公共のために役立つ)

3 授業構成

(1) 教師と教材

感動は美しいもの、よいものに対して生ずる。そして、それが、日常性を超えた高い価値としてあらわれることが必要であると考え。芸術的な美しさであれば、それがすぐれて美しければ感動を呼ぶが、道徳的価値は人間の生きることに関わるものである以上、単に高い価値としてあらわれているというだけでなく、そこに込められた人間としての在り方や生き方、リアリティーが感じられるものである必要がある。そういった意味で、道徳の時間における感動資料としてもっとも適切なもののひとつが伝記資料であると考え。

本資料は、野口英世が命をかけて黄熱病の研究に邁進した過程をまとめた話である。南米エクアドルにおいて黄熱病の研究を不眠不休で続け、黄熱病の予防ワクチンを作り上げた。中南米で多くの人の命を救った英世は、自らの命も省みずアフリカの黄熱病の病原体を突き止めるためにガーナへ向かった。アフリカ黄熱病の病原菌を見つけた英世は自身も黄熱病にかかり帰らぬ人となる。しかし、英世の成した業績とその生き様は、世界の医聖として広く人々の心に刻まれたという資料である。この資料での学習を通して、子どもたちに、社会のなかでの自らの役割を認識し、公共のために積極的に活動することの意義を実感させることができると考える。そこで、本時の学習は、社会のために働くことの意義について考えていくという「活動」からのアプローチで授業を構成する。働くことは、単に自分の生活のためだけではなく、自分に課された社会的責任を果たすことである。しかし、時に自らの欲求や利益を優先してしまいがちである。自己を理解し、自己を社会という他者とのかわりのなかで生かしていこうとする道徳的実践力を育むことができるよう活動を深めていきたい。

なお、本時では、主として内容項目の4-(4)「勤労奉仕」をねらいとしている。しかし、国際的視野に立って世界の人々の幸福に寄与し、世界の人々から信頼を得た英世の生き様にふれた子どもたちの発言も大切にしていこうとすることで、真の国際人として外国の人々を大切に、日本人としての自覚をもって世界の人々と関わるとはどういうことかについて考えを深めさせることができると考える。

(2) 子どもと教師

本学級の児童は、これまでの道徳の学習において話し合い活動を充実させることに主眼を置いて進めてきた。そのなかで、資料の登場人物の思いを自分の生活経験から想像し、自分ならどのような心情になるかを考えながら話し合えるようになってきた。また、事前に題材として取り上げる人物について調べ、それぞれの子どもたちなりの人物観をもちながら学習を進めることにも取り組んでいる。しかし、友だちの発言と重ねながら自分の思いをより深めていったり、友だちの発言のよさに気づいて自分の考えを変えていったりするような児童はまだ少ない。そこで本時では、エクアドルをはじめとした南米の黄熱病予防を完成させた英世の思いや、自らの命も省みず黄熱病研究のためにアフリカに渡った英世の気持ちについて話し合う活動を通して、ひとりの医師として黄熱病に苦しんでいる人々を自らの手で救おうとする野口英世の思いに共感させたい。そして、英世が死んだとき、なぜ世界中の人々がこれほどたたえたのかについて考える場面で、英世の生き様を子どもたちなりのいろいろな視点で見つめた発言をうながすことで、自分の思いをより深めたり、新たな見方や考え方が得られたりするように話し合い活動を進めさせたい。そうすることで、英世の生き方のすばらしさを感じ

じ、自らの生き方を見つめることで、自らを取り巻く社会のなかで自分の役割をしっかりと果たしていきたいという意欲を高めさせたいと考える。

(3) 子どもと教材

本時の主なねらいとする価値に関する児童の実態としては、高学年の自覚と責任を持って、自主的に活動しようとする姿もみられる一方で、毎日の日直の仕事や、委員会活動など『自分一人くらい...』という気持ちになり、学級や学校の友だちのために自ら進んで活動することが難しい子どもたちも多い。したがって、自己のおかれている状況とそこで期待される自らの役割についての理解を深め、公共社会のために自ら進んで活動していこうとする心情を育てていくことが重要であると考え。

そのためには、子どもたちが感動を深めることができるような学習を進める必要がある。感動を通して子どもたちがこれまで認めていた価値を改めて、さらに深く自覚することにある。そして、人間の生き方を通して普遍的な価値を自覚することで主体的な価値が初めて自覚される。深い感動を呼び起こすために、まず、子どもたち一人ひとりが野口英世についての事前学習を進める。野口英世の生き様についてそれぞれの子どもたちが多面的に調べ活動をすることで、学習のなかで、それぞれの野口英世像をもとにして話し合い活動を進めることができると考える。

本時の展開のなかで、子どもたちは、「自らの命が危険にさらされるかもしれないのに、なぜ、アフリカへ旅立つことを決めたのか」という部分に話し合いの中心を置くと考えられる。単に資料のなかの言葉で英世の気持ちを表現するのではなく、黄熱病の研究に命をかける英世の強い意志を支えているものは何かという視点を持たせながら考えていく。そうすることで、子どもたちが調べてきた野口英世の生き様を振り返らせながら、今まで支えてくれた人々への感謝、黄熱病予防に対する「細菌ハンター」としての強い使命感、医学に対する尊崇の念、他者とのかかわりのなかで自らの社会的使命を果たそうとする思い、国際社会のなかで活躍する日本人としての誇りなど多面的な価値の観点から話し合いを進めることができる。また、なぜ、国際社会から英世が高い評価を受けているのかについて話し合う活動を通して、彼の偉大な業績と人類に対する献身的な活動が世界中の人々に認められたのだということに気づかせる。そして、英世の生き方のすばらしさについて考えることで、公共社会のなかで活動するということは自らの損得ではなく、社会のなかで自らが生かされる術を見いだすことであるという価値観にまで迫らせることができると考える。

4 本時の学習について

(1) 本時の目標

黄熱病予防策を確立するために、自らの命をかけて活動した野口英世の生き方に迫る話し合い活動を通して、自己のおかれている状況とそこで期待される自らの役割についての考え、自ら進んで公共のために活動していこうとする心情を育てる。

(2) 本時の活動

「英世が死んだとき、なぜ日本人の英世を世界中の人々がこれほどたたえたのか」について話し合い、野口英世の研究活動を支えていた思いを考える。

(3) 期待される児童の様相

- ・ 自らの命をかけて黄熱病の原因究明のために研究を進めた野口英世を支えた思いは何かについて、彼の生き方を通して考え、話し合う。
- ・ 話し合いを通して、自己の利益を優先するのではなく、社会のために働く姿の尊さや美しさについて感じたり考えたりしている。
- ・ 野口英世の生き方から学んだことから、自分の生き方を振り返る。

(4) 準備

資料「世界の医聖～野口英世」、野口英世ノート、提示用写真

(5) 本時の展開 (教師の意図 全体への支援 個への支援)

学習活動	主な発問と児童の反応	教師の支援・意図
<p>導入</p> <p>1, 感想の分析</p> <p>2, 問題の焦点化・共通化</p>	<p>資料「世界の医聖～野口英世」を読んで各自が感想をもつ。</p> <p>資料の主人公の生き方に対して、どんな感想をもったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの命をかけて黄熱病の原因究明のために研究を進めたことのすばらしさ ・世界中の人々から、今もなお尊敬されていることのすばらしさ 	<p>資料の内容を正しく共感的に把握させる。</p> <p>資料の主人公である野口英世の世界的な評価の高さについて紹介する。</p> <p>野口英世の研究に邁進する姿や国際的な評価の高さに感想や問題意識をもつ児童が多いと考えられるので、問題をその部分に焦点化していきたい。</p>
野口英世の生き方とそこに込められた思いについて、話し合い活動を通して迫ってみよう		
<p>3, 問題の明確化・追究</p> <p>4, 価値の選択・決断・主体化</p> <p>5, 本時で学んだことの確認</p>	<p>アフリカに向かう船の上で、身じろぎひとつせず満天の星空を見つめていたとき、英世はどんな気持ちだったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までお世話になった方々への感謝の気持ちがあった。 ・優しく母の恩に報いるためにも、たくさんの命を黄熱病から守りたい。 ・ストークス博士の遺志を引き継いで黄熱病の予防法を完成させたい。 ・黄熱病の原因を自分が明らかにしたいという思いだった。 <p>英世が死んだとき、なぜ日本人の英世を世界中の人々がこれほどたたえたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英世が黄熱病予防のために命がけで取り組んだから。 ・自ら進んで危険を顧みず研究したから。 ・他の学者とはちがい、現地の人とともに研究し、現地の人のために研究資材を残すなど、差別することなく研究を行ったから。 <p>英世の生き方のどんなところがすばらしいと思ったか。それはなぜか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人類のために命がけで取り組んだこと。 ・だれに対しても、偏見や差別心をもたず、現地の人々が自分たちで研究を進めることができるようにと考えていたこと。 ・命がけでがんばるほど、英世は世界中の人々を救いたかったのだと思う。その思いがすごい。 ・自分のことだけを考えるのではなく常に人類のことを考えていたところがすごいと思う。 	<p>黄熱病が多くの人々の命をうばっていること、エクアドルでの黄熱病研究で大きな成果を上げたことなどをふまえ、英世の黄熱病研究に対する思いを話し合い活動を通して感じ取ることができるようにする。</p> <p>すでに名声を得ていた英世が、自らの命をかけてまでアフリカに行くのはなぜかと投げかけることで、彼の医師としての社会的な使命感についても考えさせる。</p> <p>黄熱病で命を落とした研究者は他にもいるが、なぜ、英世が世界中の人々にたたえられるのかについて、彼の功績や真摯な姿、南米やアフリカの人々にも決して偏見や差別心をもたずに活動したことなどいろいろな視点から話し合いを通して考えさせる。</p> <p>英世の生き方についてのそれぞれの考え方を話し合わせるなかで、多様な視点からの意見のなかにも、英世が自己の利益を優先するのではなく、社会のために働く姿の尊さや美しさは変わらないことをとらえさせたい。</p> <p>自分の生き方と重ねて考えられている児童には、自分の生活において英世の生き方から学んで生かすことができることは何かを考えさせる。</p> <p>教師の説話を聞き、学習のまとめとする。</p>

